特集：「基盤教育院を振り返る」

はじめに

基盤教育院は、2007年4月、リベラルアーツ学群の創設により桜美林大学が学群制へ完全移行したのに伴い、個々の学生の主体的な学びの基盤を整えるための教育を施す場として発足しました。全学共通の必修科目であるコア科目において建学の精神や大学における学びに必要なスキルを身につけることを核としつつ、本学が建学の目標に謳う「キリスト教主義に基づく国際人の育成」を目指して、コミュニケーション、コンピューター・リテラシー、キリスト教理解、学問の基礎、外国語、更にはサービス・ラーニング等、様々な領域を網羅する科目を設置し、学びの礎づくりを担ってきました。

数々の優れた実践を展開してきたこの基盤教育院が、2015年度をもってその歴史に幕を下ろすこととなりました。当分の間、科目の提供は継続しますが、時代に流れに対応した大学組織の再編成に向けて、組織としてはその役割に一旦、終止符が打たれることとなります。

この特集は、そのような節目にあたり、10年近くに及んだ基盤教育院の実践とその成果をまとめることを目的として企画されました。基盤教育院長の振り返りの言葉、三つのプログラム担当者による各プログラムの総括、FD委員会が数年間のFDワークショップを経て積み上げてきた基盤教育の体系的なまとめ、そして口語表現担当者による実践の紹介―限られた紙面で全てを網羅することはできませんが、いくつかの視点から、異なる切り口で「基盤教育院」を振り返る内容となりました。

組織として姿は消すことになりますが、基盤教育院が残してきた実践の価値が消えることはないでしょう。この特集が読者の方々に、今後の本学における「基盤教育なるもの」について何かを考える一助となれば、編集委員一同にとって大きな喜びです。

熊澤 雅子（編集委員）